

宝の海から

白浜で出会った生きものついでに

27

京都大学助教授 久保田 信(京都大学 瀬戸臨海実験所)

サケガシラのフルコースのお味は?

深海の中層に住む珍魚のか。この魚種にあったサケガシラのフルコース料理を模索してみることになった。1日付の紀伊民報で報道した通り、4月25日早朝、瀬戸臨海実験所北浜の海岸から約100mほど沖の田辺湾内で、南淳さんがイカ釣りをしていて深さ2m付近で、タモ網を使いすくい上げたものだ。

「白浜町の地魚料理」喜楽「に無理を言っていて、食べただけの肉質だった。料理を作ったのは湯引き。あんな味覚なのか。もし食べるのならこの方法がうまい。性質のため、プリンや豆

腐のようにはやわらかく、最小の個体だった。ところけるような不思議な舌触りだった。食べられなかったが、決していいことではないが、決して悪いことでもない。口を引出すと5人で試食したが、全員が同じ意見だった。この時、たまたま食事に来ていた白浜町の清水邦夫さんが、料理になってもはや原形をとどめていないのに、サケガシラだと言いつつ、店主を驚かせた。これには理由があった。清水さんは2001年3月下旬〜4月下旬の夕

い。一種の「かえし」機能は果たし、多少口からみ出る獲物でも逃がさないのに役立つだろう。口の奥には真っ赤なえらが左右に4対あった。えらにはさまざまな寄生虫がすんでいることがあり、例えば鴨居漁港の個体には線虫が多数いたが、今回の個体にはまったく見られなかった。胃腸を切開したところ、食ベカスがなく、前回のような魚の骨も出なかった。寄生虫もまった



おいしそうに調理されたサケガシラ (白浜町の地魚料理店「喜楽」で)

白浜町周辺の沿岸で過去約20年間に記録されたサケガシラ					
年	月日	場所	体長(♀)	状態	大地震の発生
1987	5月21日	塔島	255	漂着・死亡	ナシ
1994	6月4日	瀬戸漁港	約200	漂着・死亡	北海道東方沖地震 三陸はるか沖地震
1995	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	阪神淡路大震災
1996	10月16日	白良浜	約250	漂着	ナシ
1997	6月7日	湯崎海岸	約200	水深2mを遊泳	鹿児島県北西部地震
#	12月6日	芳養沖約2*	276	漁網捕獲	ナシ
2001	3月下旬~4月上旬	湯崎海岸	200以上	漂着	ナシ
2004	1月12日	鴨居海岸	230	漂着	?
#	1月20日	鉛山湾	約200	水深1mを遊泳	?
#	4月25日	臨海沖100m	170	水深2mを遊泳	?

プリンが豆腐の食感

方、白浜町湯崎の露天風呂そばの石組みでイカ釣りをしていたところ、死にそうなお魚が漂着した。サケガシラを捕獲したことがある。全長は2歳を優に超え、肉の厚みが10センチもある大形のサケガシラだったという。これは過去20年の未確認情報であり、貴重な資料となった。



白浜町北浜沖100mで2004年4月25日に捕獲された中形のサケガシラ(過去の記録では最小個体)

えらは4対あり、そこに寄生虫はまったくついていない



上あごの歯。細かい三角形の歯が集中する。獲物が逃れないような一種の「かえし」の役目と推察される

南さんはすぐ近くの北浜の瀬戸臨海実験所船揚場まで持ってきてくれるという。すぐに飛んで行った。当初の連絡は「リュウケウノツカイ」と聞いていたが、期待したが、結局、今年3個体目のサケガシラだった。同実験所の田名瀬英朋さんとついでに、この魚のあごの歯を計測した。全長170センチ、体高19センチ、体重4.5キログラム。速報第25回(4月20日付)で紹介した鴨居漁港へ漂着した個体より小く、白浜周辺で発見されたなかでは